令和７年 お茶づくり技術情報（No.８）

2025 年 7 月 10 日
佐賀県茶業技術協会
佐賀県茶業試験場

１．気象

１）これまでの気象（5 月～6 月、嬉野）

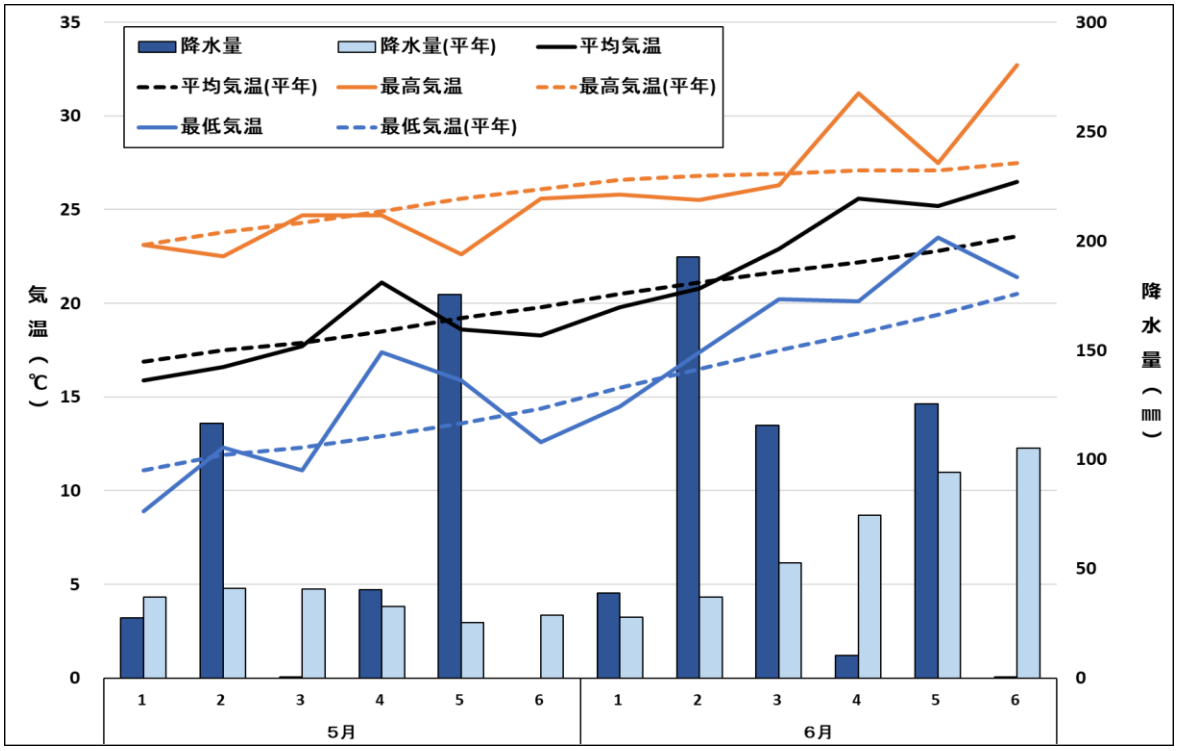


図１　2025 年 5 月～6 月における半旬別気温および降水量

注）平年値は 1991 年～2020 年の平均値を表す。

表１　九州北部の梅雨入りと梅雨明け（速報値）

	梅雨入り	梅雨明け	日数	期間降水量（mm）	前年比（%）	平年比（%）
2025 年	6 月 8 日	6 月 27 日	19	445	55	66
前年	6 月 17 日	7 月 17 日	30	802	100	118
平年	6 月 4 日	7 月 19 日	45	677	84	100

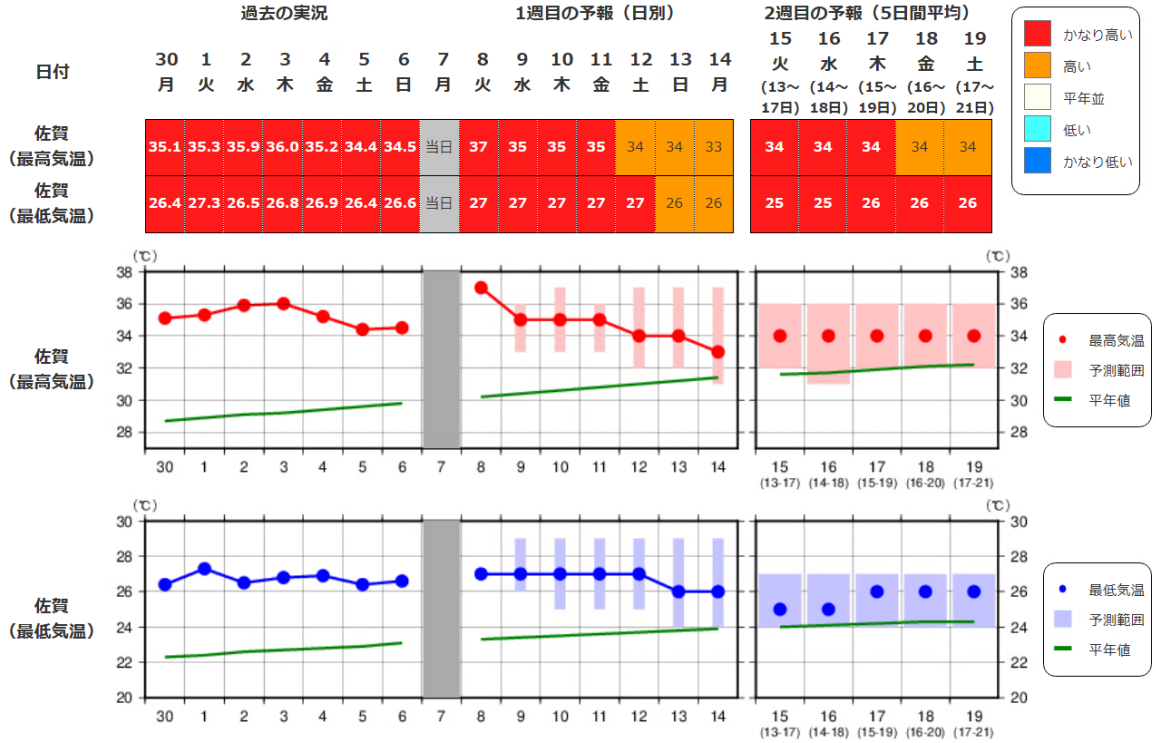
（１）半旬別平均気温は、5 月第 4 半旬および 6 月第 3 半旬以降は、平年より高く、その他の期間は平年よりやや低く推移した。

（２）5 月の降水量は合計 360.5 ㎜で、平年値 205.9 ㎜の約 175%であった。6 月の降水量は合計 483.5 ㎜で平年値 391.6 ㎜の約 123%であった。

（３）2025 年の九州北部において、梅雨の期間は 6 月 8 日～27 日の 19 日間であり、統計史上最も早い梅雨明けとなった。梅雨期間の嬉野の降水量は 445 ㎜であり、平年の 66%程度であった。

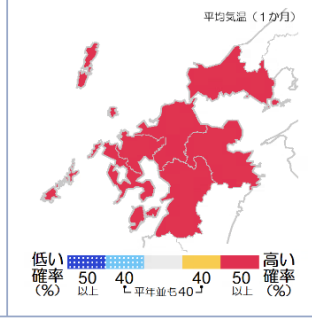
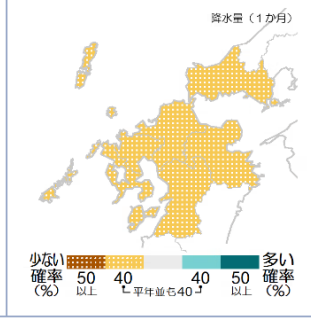
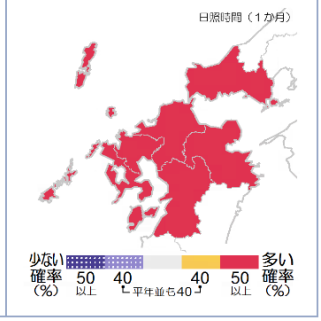
2）今後の気象の見通し

■ 2週間気温予測（気象庁、2025 年 7 月 7 日更新）



■ 1か月予報（気象庁、令和７年７月３日発表）

向こう１か月の天候の見通し
九州北部地方（山口県含む）　（7/5～8/4）

	平均気温（向こう１か月）	降水量（向こう１か月）	日照時間（向こう１か月）
九州北部地方（山口県含む）	低10 並10 高**80**% **高い**見込み	少**40** 並**40** 多20% **平年並か少ない**見込み	少10 並30 多**60**% **多い**見込み
数値は予想される出現確率（%）です			

（１）向こう１か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、高くなる見込み。
　　特に、期間の前半は気温がかなり高い状態が続く見込み。

（２）向こう１か月は、平年と同様に晴れの日が多く、期間の前半は平年よりも曇りや雨の日が少なくなる見込み。

今後の生育予測や作業時期の調整に気象庁の予報サイトを活用しましょう！

１か月予報（九州北部）　　**２週間予報（佐賀県）**

2．高温干ばつ対策

1）浅刈り

（１）高温干ばつが続いている場合は、浅刈りは急がずに降雨後に行う。

（２）浅刈りは、葉焼けを防止するため、２回に分けて行う（仮剪枝 7～10 日）。また、日中を避けて行う。

（３）浅刈りは、樹勢低下を防ぐために、必ず葉層が残る位置で行う。

2）土壌管理

（１）葉の艶や色、萎れの観察を行い、畦間の土壌水分が不足してないか確認する。

（２）幼木園や一・二番茶摘採後に更新を行った園、土壌が乾きやすい園では、通常より早めに灌水を開始する。幼木園では特に、土壌灌注を行うと効果が高い。

（３）土壌からの水分の蒸散と地温上昇を抑えるため、裾刈りは控える。

（４）灌水は 5mm 以上の雨が降らない期間が 10～15 日続いた場合、4t/10a 以上を目安に行う。スプリンクラー灌水ができる場合は、７日おきに 20ｔ/10ａを夕方の涼しい時間帯に行う。農業用水を十分に確保できない場合は、根に水分が確実に届くように、株元灌水を行う。

（５）深耕を行うと、根の切断や、地下部の乾燥により、生育停滞が生じる恐れがある。そのため、十分な降雨があるまでは実施を控え、状況によっては次年度に計画する。

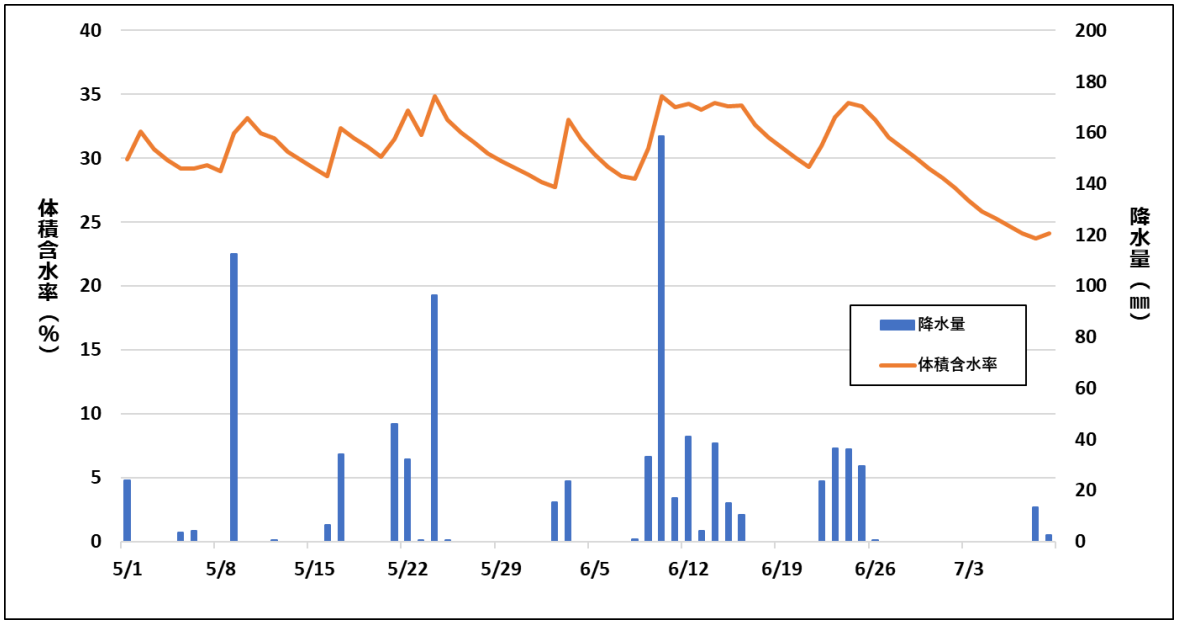


図２　茶試作況調査園における土壌含水率の推移

注）土壌体積含水率は、雨落ち部の深さ 25 ㎝部分に埋設した土壌センサーにて測定した。

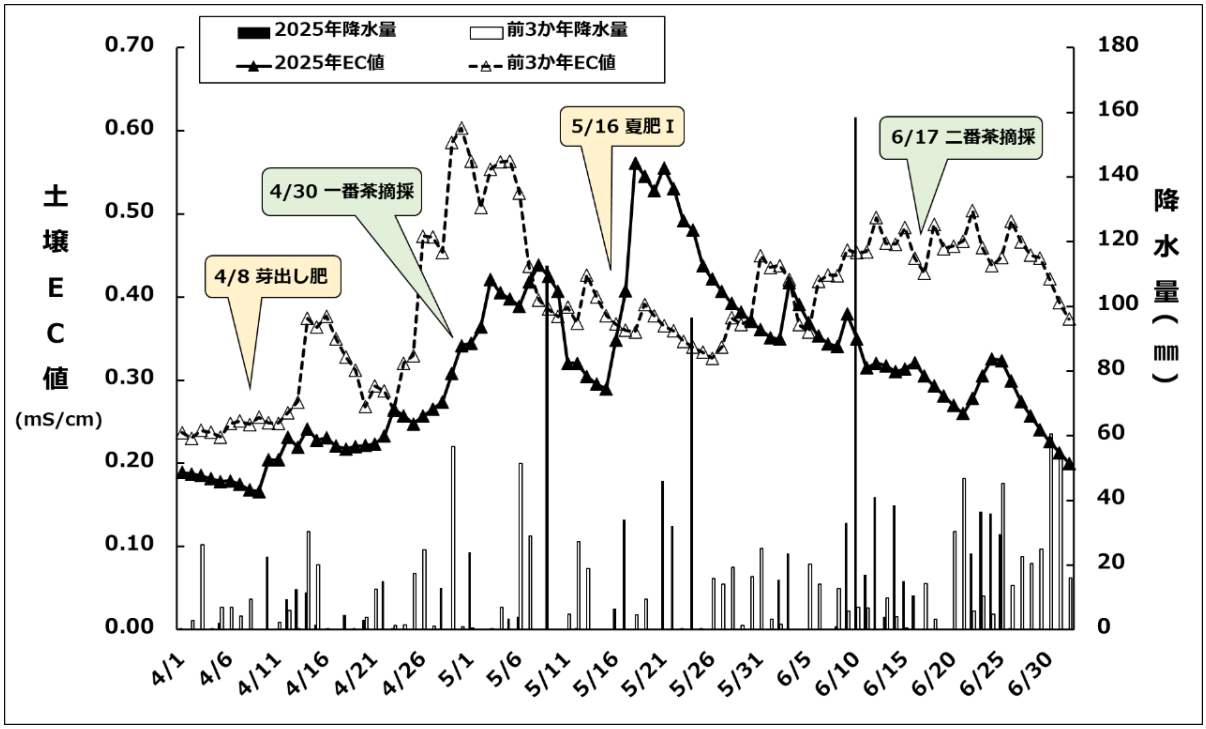


図３　茶試作況調査園における土壌 EC 値の推移

注）本年の土壌 EC 値は、雨落ち部の深さ 25 ㎝部分に埋設した土壌センサーにて測定し、実測値に基づき補正した値を示す

（6）土壌 EC 値は、夏肥Ⅰを施肥した後の降雨によって大きく上昇した。その後は降雨の度に上昇しながらも、下降し続けている。

（7）乾燥時は施肥しても成分が溶けず、降雨後一気に溶出するおそれがあるので、秋肥は気象状況に応じて降雨後に施用する。

これまでの

お茶づくり技術情報は

←こちらから